

岡野半牧 （あきの はんぼく） 小説家。嘉永元年五月一日和京國生れ。明治二十九年一月十一日歿（二八六―六六）。本名武平。別號半牧居士、南夢居士、桐廬舍鳳居等。『大阪新報』を經て、明治十一年『大阪朝日新聞』に入りて編輯の中心となり、傍ら續々物々執筆。宇田川文海と共に當年關西文壇の雄。新聞記者岡野告太子（本名養之助）の父。

編書、楳野半醉作『花洛の風雪』全二冊（校、前編・明治二十一年五月十日、後編・六月二十一日大阪・駿々堂本店）、曾根迺屋翠（楳野半醉）作『深夜夜話薄の影』（南夢居士名、校閱、明治二十一年九月十日大阪・駿々堂本店）、吉田春雨作『惡事改後島津お政の復讐』（本名、校閱、明治二十一年九月二十七日大阪・大華堂）、蘆屋居士（法信半鼻）作『去上後談花吹雪』（閱、明治二十一年十一月十一日大阪・駿々堂本店）、曾根迺屋翠（楳野半醉）作『東都名産のぼり鯉』（閱、明治二十一年十一月二十八日大阪・駿々堂本店）、楳野半醉作『筆はじゆ』（南夢居士名、閱、明治二十二年五月一日大阪・駿々堂本店）等。

